

## 堆積物分布からみた鳥取県西部境港地域の砂州拡大過程

### Sedimentary process of sand bar formation near Sakaiminato city, western Tottori prefecture based on sediment composition

# 井上 卓彦[1]; 原口 強[2]; 五十嵐 厚夫[3]; 奈良 正和[4]; 岩本 直哉[5]; 天野 敦子[5]; 井内 美郎[4]  
# takahiko inoue[1]; Tsuyoshi Haraguchi[2]; Atsuo Igarashi[3]; Masakazu Nara[4]; Naoya Iwamoto[5]; Atsuko Amano[5]; Yoshio Inouchi[4]

[1] 愛大・理工・環境; [2] 大阪市大・理・地; [3] 復建調査設計; [4] 愛大・沿岸センター; [5] 愛大・理工・環境

[1] Graduate School of Sci. and Eng., Ehime Univ.; [2] Geosci., Osaka City Univ.; [3] FGEX; [4] CMES, Ehime Univ.; [5] Earth Sci., Ehime Univ

現在、日本の人口の多くは沖積平野に集中している。そのため沖積平野を形成するシステムやプロセスを知ることが大変重要になっている。沖積平野の形成を明らかにするためには、現在平野が作られている地域の形成過程を明らかにする必要がある。今回調査地域とした境港地域は鳥取県西部に位置し、現在も海岸線が沖へ成長を続けている地域である。今回は、この境港市近傍の海岸でジオスライサーを用いた調査を行った。陸上で2本、沿岸海域で3本の試料を採取した。採取した試料は粒度分析・岩石鉱物組成分析が行われた。いくつかの層準で炭素14法と鉛210法を用いて放射年代と堆積速度を計測した。本研究では以上の分析結果をもとに境港地域の堆積史を議論する。

堆積物組成を検討した結果、約3000年前以降本地域の環境を5つに区分できた。ステージ1では、堆積物が泥質堆積物で上部細粒化する。調査地域は沖浜に位置していた。ステージ2では、環境変化が少なく本地域に泥質堆積物が安定して堆積する。海岸が遠く堆積速度も遅い。ステージ3は江戸時代に始まる。供給碎屑物に変化が認められる。ステージ4では海岸線の前進が認められる。堆積物は大きく粗粒化する。海岸からの碎屑物の影響が大きくなる。堆積相は大きく変化する。ステージ5では、海岸は現在の環境になる。粗粒堆積物が大きな割合を占め、海岸を形成しているサンドボディーと同様の碎屑物が堆積する。